

北海道教育委員会

北海道高等学校

「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・
対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）
の視点からの学習・指導方法の改善の推進
のための実践研究」

【SCRUM】

「アクティブ・ラーニング実践研究」

場所：東京会場（学術総合センター 一橋講堂）

とき：令和元年（2019年）7月31日（水）

1 これまでの取組

- 「授業実践セミナー」の実施(H21～H27)
- 「授業実践講座」の実施(H28～H30)
- 「言語活動の充実に関する実践研究(課題解決に向けた主体的・対話的で深い学びの推進事業)」(H27)
- 「教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究(SCRUM)」(H28～H29)

1 これまでの取組

(1) 成果

- ・「育成すべき資質・能力」を踏まえた学習指導を行うための教員の教科指導力の向上
- ・公開授業や実践発表等を実施することにより、先進的な授業実践等の普及
- ・「アクティブ・ラーニング」の視点からの学習・指導方法の改善について理解を深め、授業の工夫・改善

1 これまでの取組

(2) 課題

- ・授業改善が個々の取組にとどまっている。
【教員の共通理解】
- ・学校全体の取組になっていない。
【校内体制】
- ・指定事業において、進学校で取り組んでいたため、
それ以外の学校に普及しなかった。
【教員の意識改善】

2 本事業の実践計画の概要

(1) 趣旨

学習指導要領の改訂を踏まえ、「社会に開かれた教育課程」を実現するため、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの学習・指導方法の改善やカリキュラム・マネジメントの推進などに取り組むとともに、その成果を普及し、新学習指導要領の周知・徹底を図る。

『実施要項』(平成30年6月27日高校教育課長決定)

2 本事業の実践計画の概要

(2) 研究課題(テーマ)

- ア 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの学習・指導方法の改善についての研究
- イ カリキュラム・マネジメントの推進に係る研究
- ウ 遠隔システムを活用した指定校の連携に係る研究

2 本事業の実践計画の概要

(3) 実践研究の内容

「Student」【生徒理解に基づく指導の充実】

互いの存在についての理解を深め、尊重することを通して、生徒に自己存在感を与え、共感的な人間関係を育成するとともに、自己決定の場を与え、自己の可能性を開発するなど、生徒理解に基づく指導の一層の充実を図る。

「Cooperation」【他の高等学校、中学校、地域等との連携・推進】

「社会に開かれた教育課程」を視野におき、育成すべき資質・能力を踏まえた教育課程の実施等について、各圏域を中心に他の高校と「取組の成果」の交流や情報交換を行うとともに、地域の中学校との授業研究会等の開催や地域の教育支援を活用するなど、関係団体等との連携を図る。

「Research」【各種調査等の活用】

アクティブ・ラーニングの検証に向け、これまで実施してきた、道教委独自の「学習状況等調査」や学力テストのほか、PISA調査や国の「学力・学習状況等調査」などの結果を関連付けて、生徒の学力や学習状況の把握を推進するとともに、各学校における定期考査等、評価のためのテスト等の在り方について研究を行い、評価及び授業の改善を図る。

「Universal Design」【ユニバーサルデザイン、インクルーシブ教育の視点からの授業改善】

自分の思いや考えを伝えるとともに、相手の思いや考えを理解し尊重できるようにすることを目指し、発達障害のある生徒など、障害のある生徒とともに協働的に学ぶことにより、特別支援教育の視点にも留意した授業改善を図る。特別支援教育の視点に立つ配慮や工夫を通して、教員の授業力・指導力の向上とともに、発達障害のある生徒のみならず、全ての生徒の学習内容の理解や学習意欲の向上を図る。

「Management」【カリキュラム・マネジメントの構築】

学校で育成すべき資質・能力を確実に育むためのアクティブ・ラーニングを推進する観点から、どのような教育課程を編成し、どのようにそれを実施・評価し改善していくのかという「カリキュラム・マネジメント」を確立させ、教科等横断的な視点からの教育活動の改善や、教科等や学年を越えた組織運営の改善を目指して、学校の運営全体の見直しを図る。

2 本事業の実践計画の概要

(4) 取組の具体

ア 育成すべき資質・能力の明確化、資質・能力を確実に育成するための教育課程の編成・実施

① 「カリキュラム・マネジメント」の確立

② 「PDCAサイクル」の構築

イ 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの授業改善

① 公開授業を実施及び他校の教員等と研究協議の実施

② 校内研究会等の実施

ウ 思考力・判断力・表現力の評価方法に関する研究

評価方法(「パフォーマンス評価」、「ルーブリック」、「ポートフォリオ評価」等)の理論と実践に関する成果と課題の検証

エ 全道の高等学校等への成果の発信

< 指定校 >

○ 拠点校 (4校)

サポート校のない管内に本実践の中心となる拠点校を指定

○ サポート校 (4校)

先の事業の拠点校を本事業のサポート校として指定

○ 推進校 (6校)

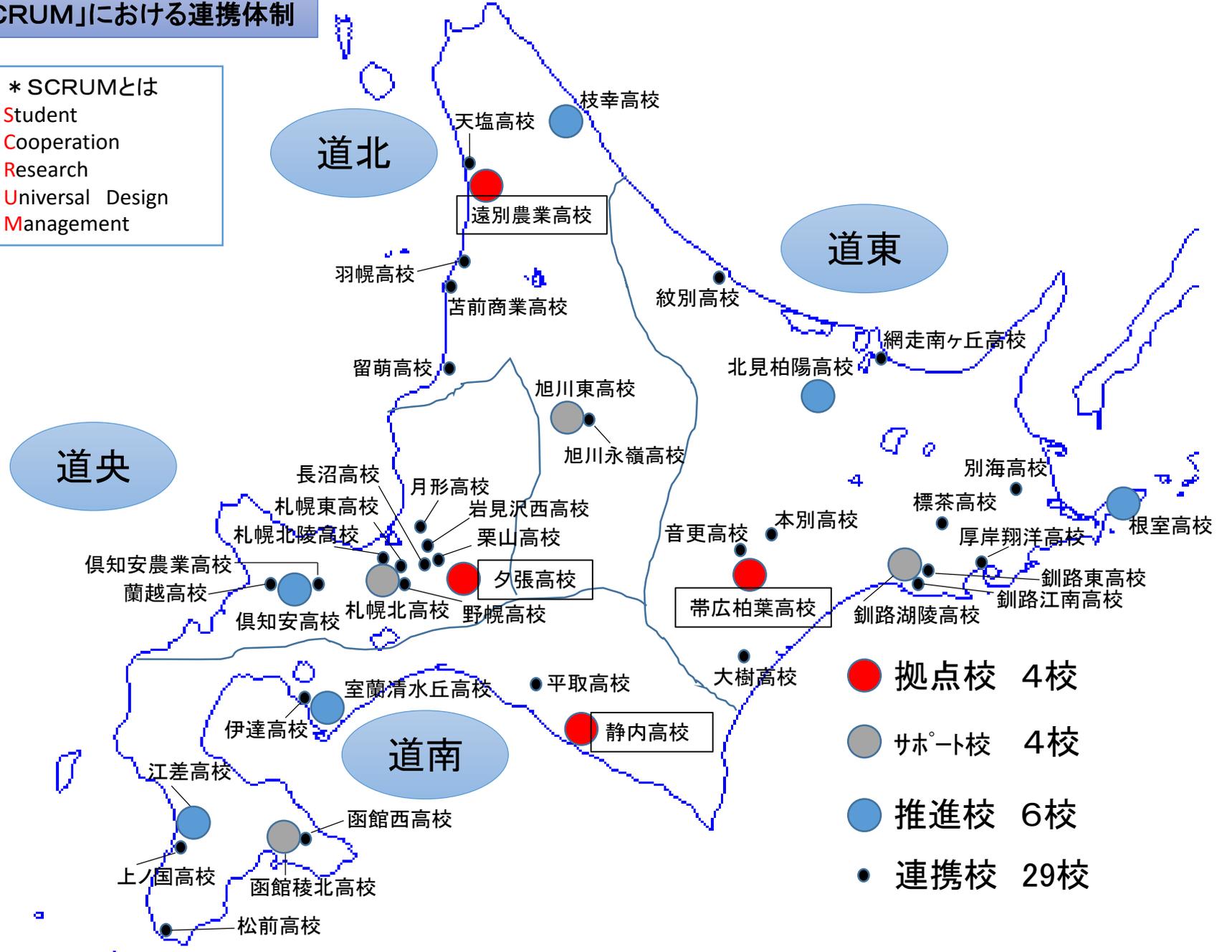
拠点校・サポート校のない管内に拠点校と協力して本実践を推進する推進校を指定

○ 連携校 (29校)

拠点校・サポート校・推進校の近隣にカリキュラム・マネジメントの確立に向けて、拠点校、サポート校、推進校との意見交換等を実施する連携校を指定

「SCRUM」における連携体制

* SCRUMとは
Student
Cooperation
Research
Universal Design
Management



- 拠点校 4校
- サポート校 4校
- 推進校 6校
- 連携校 29校

< 指定校 >

圏域	拠点校	サポート校	推進校	連携校
道央	夕張	札幌北	倶知安	岩見沢西、栗山、月形、長沼、札幌東、札幌北陵、野幌、倶知安農業、蘭越
道南	静内	函館稜北	室蘭清水丘、江差	函館西、松前、上ノ国、伊達、平取
道北	遠別農業	旭川東	枝幸	旭川永嶺、留萌、苫前商業、羽幌、天塩
道東	帯広柏葉	釧路湖陵	北見柏陽、根室	網走南ヶ丘、紋別、音更、大樹、本別、釧路江南、釧路東、標茶、厚岸翔洋、別海

2 本事業の実践計画の概要

(5) 各種協議会・研究大会

	事業等	内容	実施主体(主催)
研究協議会	圏域別指定校連絡協議会	<ul style="list-style-type: none">・研究実践の発表及び協議を行い、研究成果の共有を図る。・指定校間における教員研修や定期的な情報交換、推進体制の充実に向けた意見交換を行う。	各拠点校
	全道指定校連絡協議会	<ul style="list-style-type: none">・遠隔システムを活用し、各圏域における拠点校とサポート校を結び、効果的な協議を行う。	高校教育課
研究大会	圏域別研究協議会	<ul style="list-style-type: none">・研究実践に関わる講演、授業参観等	拠点校、主管局
	全道指定校連絡協議会研究大会	(2019年度に実施)	高校教育課

拠点校【道央圏域】

『北海道夕張高等学校』の実践

1 本校の概要



- 夕張高校を取り巻く状況
 - 平成19年財政破綻、一気に人口減少
 - 高校も減少し、夕張高校も1学年1学級へ
 - **平成28年度：夕張市から夕張高校への補助金執行**
 - **平成30年度：高校魅力化事業開始**
- 生徒数 65名（3年19名、2年26名、1年20名）
- 教員数：教諭12名、養護教諭1名
 - 教員の経験年数 10年以下 7名
 - 本校勤務年数 5年以下 11名
- 平成30年度卒業生進路状況（進学9名、就職10名）

2 現状と課題

- (1) 学力差のある集団に対するAL型授業の研究
- (2) 地域の人材等と連携し、体験活動を含めた多様な学習プログラムの確立
- (3) 全ての教育活動を有機的・系統的につなげるカリキュラム・マネジメント



3 本校の取組

(1) 生徒理解に基づく指導の充実(Student)

ア 人間関係を形成する力やコミュニケーション能力の育成を図る取組の実施

イ コミュニケーションスキルを生かす機会の確保



3 本校の取組

(2) 他^イの高等学校・中学校・地域との連携(Cooperation)

ア 遠隔授業の実施

イ 「英会話オンラインシステム」を活用した英語教育の充実



3 本校の取組

(3) 各種調査の活用(Research)

(4) ユニバーサルデザイン・インクルーシブ
教育の視点からの授業改善
(Universal Design)

(5) カリキュラム・マネジメント(Management)

→ 夕張高校のこれまでの取組を図式化

- ・校内組織図と取組イメージ
- ・単元配列表の作成

教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの学習・指導方法の改善の推進研究【拠点校】

北海道夕張高等学校SCRUM取組イメージ

SCRUM推進委員会



思考力・判断力・表現力等の能力



北海道夕張高等学校 単元配列表（教科連携/主体的・対話的で深い学び/行事との

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
行事	来賓おめでとう	生徒総会 高体連地区大会 高野連春季大会	高野連夏期大会	学校祭	オープンスクール	体育祭	生徒会役員選挙	見学旅行
		インターンシップ準備	インターンシップ				選択科目決定 コース別進路ガイダンス	
	進路オリエンテーション 第1回進路調査		インターンシップ報告会	オープンキャンパス	進路講演会			進学相談会
			前期中間試験	夏期進学講習		前期期末試験		後期中間試
学習・生活	髪型服装検査 清掃点検週間	ほっと・QU実施 ネット講話：SNSでのコミュニケーションスキル	保証講話	清掃点検週間		交通安全指導 QU・ほっと	薬物乱用防止講座	
	通年実施：授業始業終業時の挨拶・礼の徹底指導、職員室入室時の礼法・敬語指導、朝学習（基礎学カドリル）							
LHR	HR役員選出 個人写真撮影 進路希望調査		学校祭要項 選択科目ガイダンス 学校祭準備	選択科目調査 夏休みに向けて	SST 集団カウンセリング 体育祭準備	体育祭準備 前期反省	クラスボランティア ほっと 見学旅行準備	見学旅行準備 見学旅行結団式 見学旅行解団式 見学旅行収録作成
	進路ガイダンス	ほっと・QU実施	インターンシップ	インターンシップ礼状の作成	進路講演会②		コース別進路ガイダンス	
	インターンシップ事前指導①職業レディネス	インターンシップ事前指導② インターンシップ事前指導③	インターンシップ事後指導①～③ インターンシップ報告会	多くの人の前でプレゼン				

拠点校【道南圏域】

『北海道静内高等学校』の実践

1 本校の概要

(1) 学校を取り巻く地域の現状

日高学区 7町 中学校数14校 平成31年3月卒業生数 545名
道立高等学校5校、町立高等学校2校 定数計 520名
(欠員計 108名)



中学校への
学習支援ボランティア

(2) 在籍生徒数

- 1年次159名、2年次162名、3年次190名 合計511名
- クラス編成 2・3年次5学級編成(内「特進クラス」1、「普通クラス」4)
1年次 4クラス(内「特進クラス」1、「普通クラス」3)

(3) 卒業生進路状況 (平成31年3月末日現在)

大学53名(内 国公立大学24名) 短大・専門学校50名 就職49名

(4) 教員等の経験年数及び本校勤務年数 (令和2年3月31日現在)

	～5年	～10年	～15年	～20年	～25年	～30年	～35年	36年～
教職経験	5	19	7	2	2	4	0	2
現在校勤務	30	8	1	1	1	0	0	0

2 本校の現状と課題

(1) 学習意欲の向上(「北海道高等学校学習状況等調査」より)

質問項目 『高校入学前に比べ、学習しようとする意欲が高まった。』

	H27	H28	H29	H30
そう思う	35.8	42.8(27.1)	39.1(26.3)	45.1(28.1)
どちらかといえばそう思う。	44.9	42.1(40.1)	44.8(39.4)	42.0(39.1)
どちらかといえばそう思わない。	15.0	9.2(20.9)	12.5(21.6)	9.9(20.9)
そう思わない	4.3	5.9(11.9)	3.6(12.7)	3.0(11.8)

()全道平均 単位%

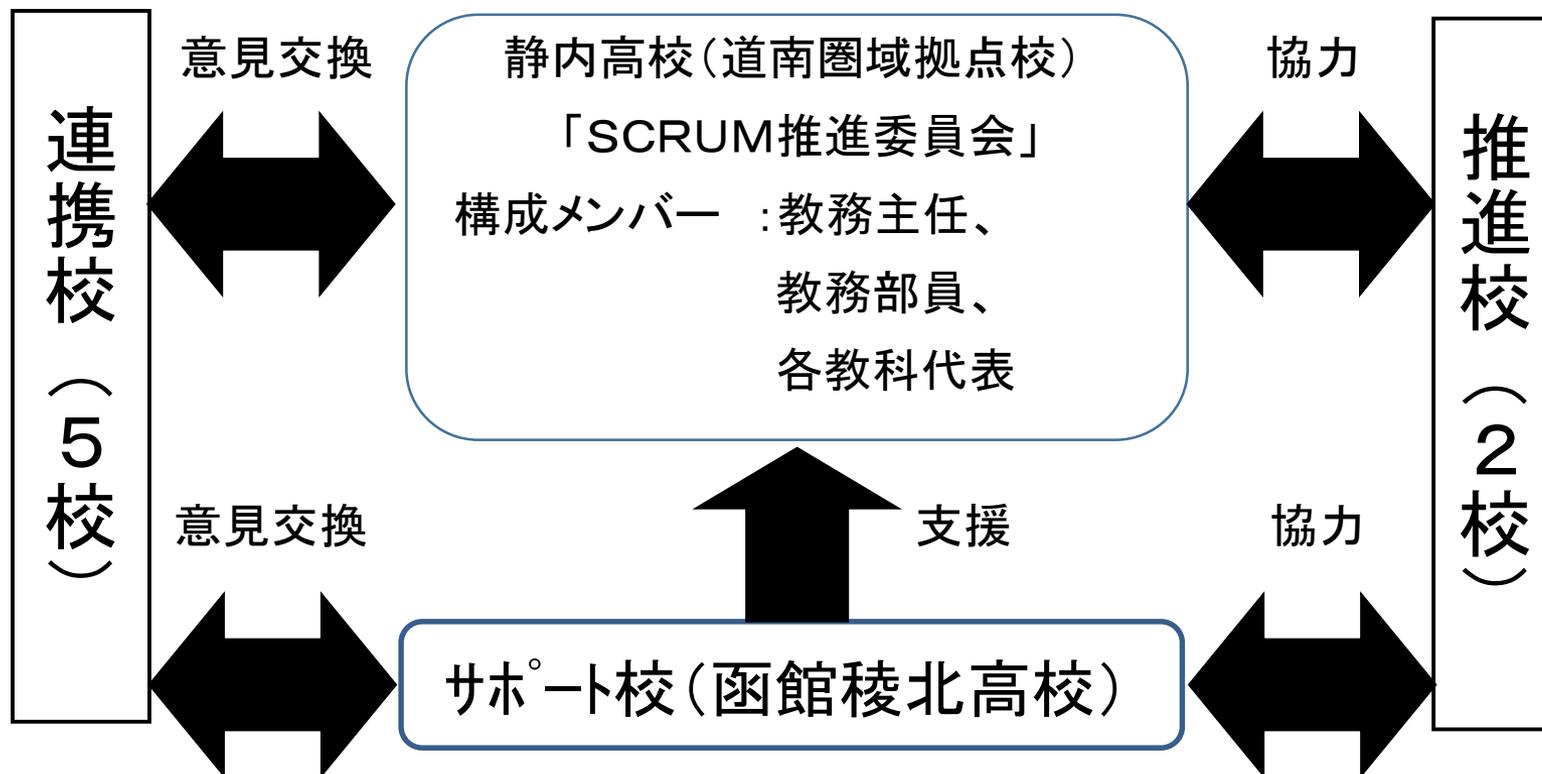
2 本校の現状と課題

(2) 授業日における家庭学習時間(「北海道高等学校学習状況等調査」より)
質問項目『授業がある平均1日あたりの学習時間』

	H27	H28	H29	H30
まったく、またはほとんどしない。	18.7	5.3(26.5)	9.9(26.7)	12.3(25.8)
30分未満	18.2	11.8(18.5)	13.5(18.4)	11.1(18.4)
30分以上1時間より少ない。	30.5	18.4(23.1)	24.0(22.9)	24.1(24.1)
1時間以上2時間より少ない。	23.0	38.2(21.9)	31.8(22.4)	37.0(22.2)
2時間以上3時間より少ない。	6.4	23.0(8.1)	15.6(7.8)	10.5(7.4)
3時間以上	3.2	3.3(2.1)	5.2(1.8)	5.0(1.9)

()全道平均 単位%

3 実践内容と進捗状況



3 実践内容と進捗状況

(1) SCRUM事業から静内高校流の「SCRUM」へ

- **S** Student(生徒理解に基づく指導の充実)
→ Student(変更なし)
- **C** Cooperation(他高等学校、中学校、地域等との連携・推進)
→ Chance(自己を成長させる「きっかけ」)
- **R** Research(各種調査等の活用)
→ Ride on(「参加する」授業の実践)
- **U** Universal Design(ユニバーサルデザイン、インクルーシブ教育の視点からの授業改善)
→ Unique(生徒の「個性」を伸ばす)
- **M** Management(カリキュラム・マネジメントの構築)
→ Muscle(思考「力」などの力を習得させる)

3 実践内容と進捗状況



(2) 昨年度までの取組

- ・「Student」
 - ① ペアワーク・グループワークの実践
 - ② パフォーマンステストの導入(外国語)
 - ③ ICTを活用した授業の工夫(理科・国語・保健体育)
- ・「Cooperation」
- ・「Research」
 - ① 日高地域研究(環境)
 - ① 学習状況の定点観測、評価や授業改善を目的とした授業公開・合評会
- ・「Universal Design」
 - ① 視覚と聴覚の双方を意識した連絡の工夫(教科通信など)
 - ② ユニバーサルカラーチョークの導入
- ・「Management」
 - ① 授業公開・合評会の実施、教育課程委員会の実施
 - ② 学校教育目標から育成を目指す「10の力」の具体化(自己肯定力、行動力、創造力、表現力、郷土愛、自己管理力、思考力、言語力、分析力、道徳心)
 - ③ 育成を目指す「10の力」に係る生徒アンケート調査

3 実践内容と進捗状況

(3) 今年度の取組

自己肯定力	行動力	創造力	表現力	郷土愛	自己管理力	思考力	言語力	分析力	道徳心
2.86	2.73	3.06	2.41	2.95	2.93	2.87	2.74	2.82	3.56

4段階評価平均値

- ① 日常的・教科等横断的な公開授業、研究大会、→ 新学習指導要領を見据えた「主体的・対指定校連絡協議会 話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ② 「10の力」に関するルーブリックの作成 → 思考力・判断力・表現力等の評価方法「学習指導案」の改善 に関する研究
- ③ 「静高シラバス」の改善、単元配列法の作成 → 育成すべき資質・能力を確実に身に付けるための教育課程の工夫・改善

拠点校【道北圏域】

『北海道遠別農業高等学校』の実践

1 学校の概要



(1) 本校を取り巻く地域の現状

人口	2,663人
距離	札幌市から250km
基幹産業	農業、漁業

(2) 教員等の経験年数及び勤務年数

平均年齢	30.4歳
経験年数	7年
本校勤務年数	3.5年
勤務学校数	1.3校



1 学校の概要



(3) 在籍生徒数

	1年		2年		3年		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
人数	10	12	15	10	10	7	35	29
寄宿舍	6	8	9	6	8	6	23	20



(4) 卒業生進路状況

	農業自営	就職		進学	
		管内	管外	大学短大	専門学校等
28年度	2	5	5	1	4
29年度	0	5	1	4	2
30年度	0	4	7	0	4

2 本校の現状と課題



(1) 現状

- ・特別支援教育を必要とする生徒が在籍している
- ・教科横断的視点の授業を実施している
- ・地域と連携した教育活動を推進している

(2) 課題

- ・ほっと、アセスの結果活用による授業改善
- ・クロス・カリキュラムの効果的な実施
- ・校内外の「連携」、情報共有の徹底



3 実践内容と進捗状況



(1) 生徒の実態把握による支援方法の検討

- ・ほっと、アセスを2回ずつ実施
- ・特別支援教育総合推進事業の推進校指定の取組

(2) 「3つの連携」による教育活動の充実

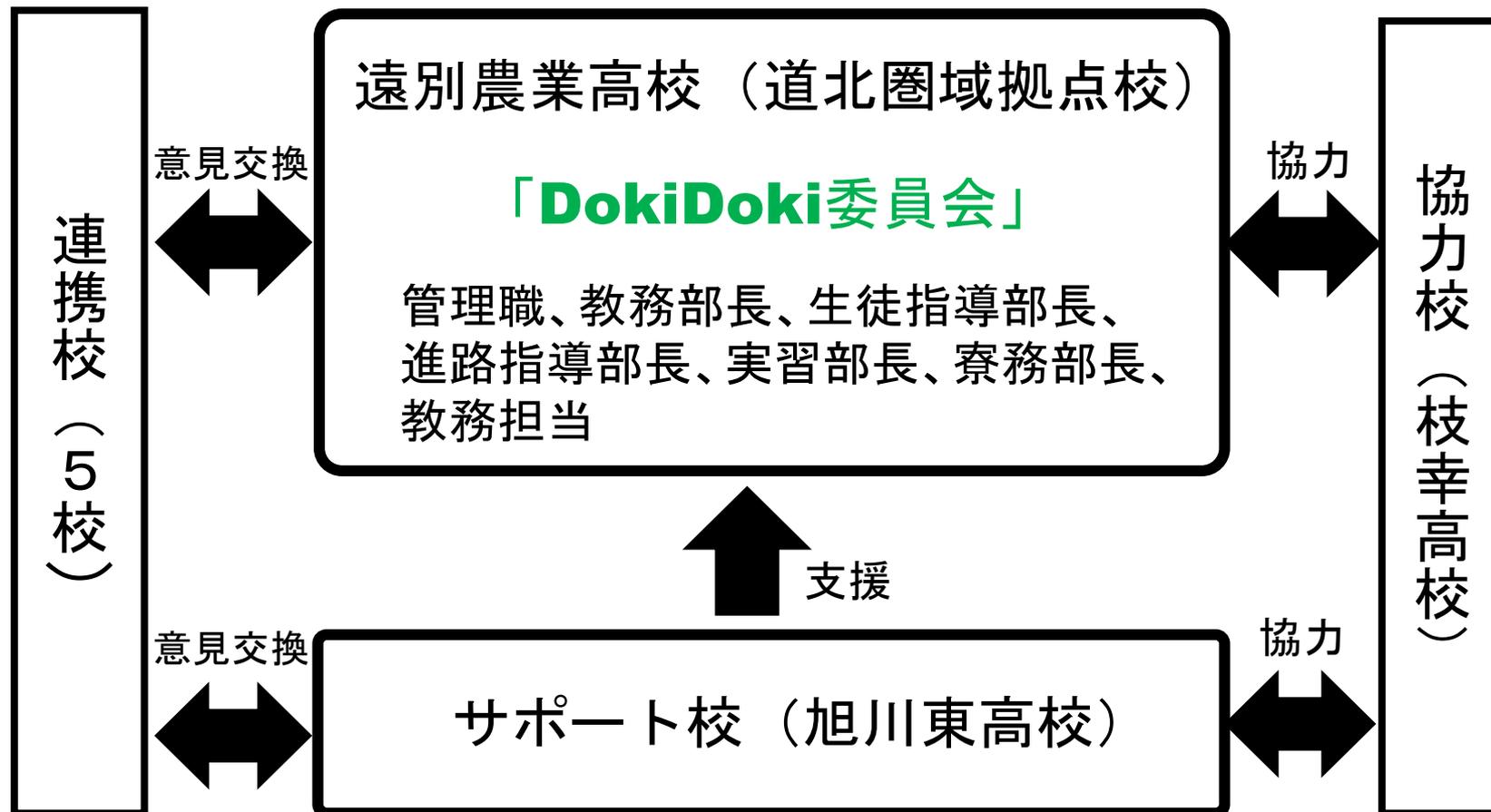
- ・地域連携(EMBETSUあぐりスクール:異校種連携)
- ・企業連携(ヤフー株式会社との協働による先進的取組)
- ・グローバル連携(海外研修の実施)

(3) ICTの活用

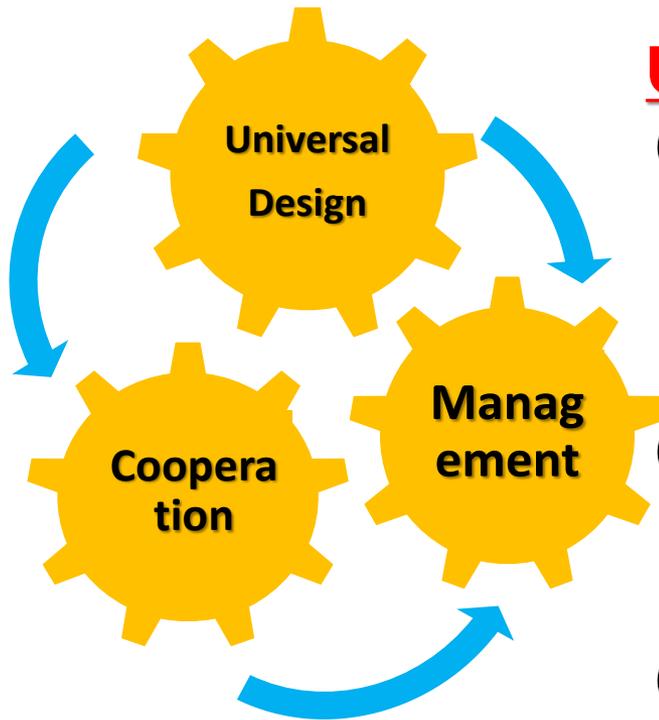
- ・授業、学校行事、授業評価等での活用



4 校内組織体制(DokiDoki委員会)



5 今後の取組の方向性



UPDATE ENNOU

(1) **Universal Design**

誰もが過ごしやすい環境をつくり、
ほっと・アセスを活用して生徒の効果
的な支援につなげる。

(2) **Management**

クロス・カリキュラムを実践し、教科間
の連携を強化する。

(3) **Cooperation**

3つの連携を柱とし、持続可能な取組
にする。

6 詳しくは・・・

本校ホームページ
Facebookページで
＼情報発信中／



北海道遠別農業高等学校

あなたの『いいね!』が遠農を元気に!



拠点校【道東圏域】

『北海道帯広柏葉高等学校』の実践

実践計画の概要

北海道帯広柏葉高等学校【道東圏域】

「Student」【生徒理解に基づく指導の充実】

・大学進学希望生徒が多い実態を踏まえ、知識を深めるだけでなく多様な大学入試に対応することや学問や職業など将来を見据えた生徒の資質・能力を育成する指導の充実を図る。

「Cooperation」【他の高等学校、中学校、地域等との連携・推進】

・圏域拠点校として推進校及び連携校と連携し、実践研究の共有や中学校における取組について積極的に相互交流、外部講師による講演、先進校視察など、適切なテーマを設定して研修を行う。

「Research」【各種調査等の活用】

・「北海道高等学校学習状況等調査」における家庭学習時間の変化等を分析し、主体的な学びの深まりを検証する。
・生徒による授業アンケートから、生徒の学習が、習得・活用・探究の学習プロセスを意識した深い学び、他者と相互作用する対話的な学び、自ら学習活動を振り返る主体的な学びにつながっているかを検証する。

「Universal Design」【ユニバーサルデザイン、インクルーシブ教育の視点からの授業改善】

・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「わかる授業」の一層の充実と普及、教師の授業力向上と授業改善、通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある生徒の指導・支援の充実を図る。

「Management」【カリキュラム・マネジメントの構築】

・「各教科」「総合的な学習の時間」「特別活動」において教科等横断的な視野に立って、育成すべき生徒の資質・能力の向上を図る。
・学力の3要素を意識し、思考力・判断力・表現力の育成を目的とした評価方法の工夫改善について検討する。
・生徒による学習評価や教師相互による授業評価等により、授業改善サイクルの確立を図る。
・地域の中心校として学校のグランドデザインを明確化し、他校にも活用できるよう汎用性のある授業改善の在り方について、パッケージ化を図る。

1 学校の概要

(1) 本校の概要

- ア 北海道農業の中心である十勝
その地域から進学実績を期待されている中心校

- イ 教員等の経験年数 平均24.8年
本校勤務年数 平均6.2年

- ウ 在籍生徒数 831人（男425名 女406名）

- エ 卒業生進路状況 国公立大 137名
私立大 302名
(2019年度入試 現役生のみ)

(2) 本校の現状と課題

○主体的・対話的で深い学び(AL)について本校生の認識

問1 ALを行っている授業は？(1学年のみ)

- 1 英語(230名) 2 国語(175名) 3 数学(115名)
4 理科(60名) 5 地歴公民(18名) 1年生279名中

※教科による隔たりが大きい

※クラス間の隔たりもある(例:国語 最大33名 最小3名)

問2 ALの授業をもっとしてほしいか？

- 1年生(248名) 2年生(229名) 277名中
3年生(166名) 275名中

※学年進行でALを望む数が減少している

2019. 5 帯広柏葉高校新聞局調べ

(3) 実践内容と進捗状況

ア 総合的な学習(探究)の時間における探究活動の工夫
主体的に取り組むための導入の工夫

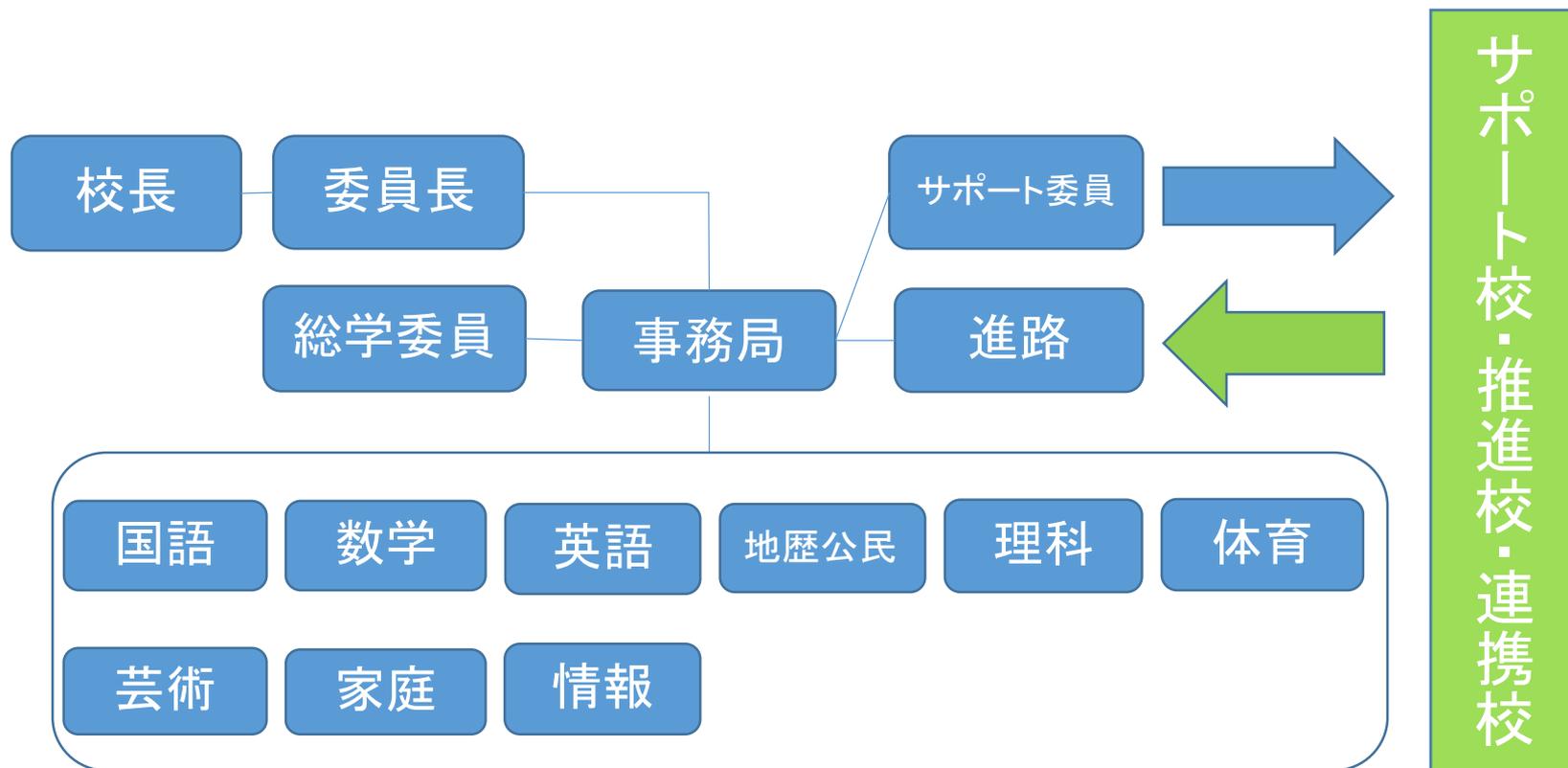
イ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善
支援を必要とする生徒に対する改善点をレポートに

ウ アンケート調査の共有
ALに関わるアンケート調査を精査する

エ 公開授業の実施
生徒の授業評価を同時に実施し、授業改善の手立てとする。

いずれも校内研修会とリンクさせ、その都度まとめ、各校に発信する。

(4) 本校の組織体制



※委員長:教頭 事務局:教務部

(5) 今後の取組の方向性

ア 総合的な学習(探究)の時間における探究活動の工夫

- ・過去の実践例をサポート校・推進校・連携校に発信

イ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善

- ・各教科の改善点レポートを校内研修会でまとめ、発信

ウ アンケート調査の共有

精査したアンケート調査をサポート校・推進校・連携校でも実施

- ・各校のデータ比較

エ 公開授業の実施

- ・授業評価結果を校内研修会でまとめ、教員間で共有